

10/25  
3/4

# 炊き出しに400人 東京・東池袋

投票日まで約1週間となった23日、生活困窮者支援をするNPO法人「TENOHASI」が東京都豊島区の東池袋中央公園で定期的に行う炊き出しには約400人が並びました。

寒風が吹くなか、1時間以上も前からじっと並ぶ人たち。男性が多いなか女性や若者の姿もあります。

51歳の女性は「足が悪くなつて働けない」と話します。収入は親族からの月5万円の援助だけ。「ここでもらった食料を

## NPO「過去最多の勢い続く」



食料配布に並ぶ人たち＝23日夕方、東京都豊島区

何日かに分け、温めて食べられている」といいます。幼いころから習っていた楽器の奏者の資格もありますが「今は体も動かないし、楽器もない。また弾ける日が来るといいですね」とつぶやきます。

「家を失い1年近い、今は段ボール暮らし」だ

という男性(56)は20代から建築作業員として働いてきました。大手ゼネコンの「下請けの下請け。腰を悪くして働けなくなった。会社の寮も居られなくなった」。

生活保護は親族に問い合わせる「扶養照会があるから、受けたくない」

といます。政府に望むことを尋ねると「給付金を出してほしい。アパートを借りて、体を治して、また働きたい」。住所がないため選挙の投票券が手元にありません。

「ここに投票箱を置いたらいい。ここにいるような人たちがみんな投票に行ったら政治も変わる」

この日、400食の弁当と、追加した30食の牛丼がすべてなくなりました。「TENOHASI」の清野賢司事務局長は「400人を超えたのはリーマン・ショック後の2009年以来。過去最多の勢いが続いている」と危機感を募らせます。